◀生育状況を確認する生産者

白神トピックス

夏ねぎの収穫を前に講習会を開く

ねぎ部会

ねぎ部会（大塚和浩部会長）による夏ねぎ現地巡回講習会が６月19日、能代市農業技術センターで開かれ、生産者やＪＡ、秋田県農業試験場の担当者ら約40人が参加しました。

はじめに大塚部会長が「いよいよ夏ねぎの出荷が始まる。病害虫や除草など様々な課題があるが、今回の研修を通して解決してもらいたい」とあいさつ。その後、秋田県農業試験場主任研究員の本庄求氏による「除草剤の上手な使い方」と題した講習を行いました。本庄氏は土壌処理剤使用のポイントとして「雑草発生前に散布することが重要。定植と除草剤散布はセット作業と考えてほしい」と説明しました。

また、地域振興局普及課職員からは生育状況などの説明がされ「６月下旬頃からべと病の発生が懸念される。感染から発病まで５～10日程度かかるため、感染前の予防防除が何よりも重要。べと病には必ず感染するものと思って、早めの防除をお願いしたい」と呼びかけました。その後、同技術センターや生産者の圃場に足を運び、生育状況や栽培管理について理解を深めました。

夏ねぎは７月下旬から９月末まで出荷され、今年度は数量1676.4㌧、金額６億5227万円を計画しています。

販売額１億円を目指す

きゃべつ部会

きゃべつ部会（工藤武一郎部会長）は６月５日、出荷目揃会を開き、部会員や市場関係者ら約30人が参加のもと、市場動向や生育概況、出荷規格の確認を行いました。

はじめに、工藤部会長が「市場から求められるキャベツ、安全・安心で消費者から選ばれるキャベツを出荷し、販売額１億円を目指して頑張っていこう」とあいさつ。また、地域振興局普及課職員は、今後菌核病が増えてくる恐れがあることに触れ「圃場巡回をこまめに行い、防除間隔があかないように計画的に薬剤散布をしてほしい。併せて、コナガ等の害虫対策も徹底してもらいたい」と呼びかけました。

▲出荷規格について確認する部会員

▲多くの方が購入していきました

旬の「白神きゃべつ」を店頭販売

販売課・営農企画課

ＪＡでは６月30日に、秋田市のマルダイおのば店で「白神きゃべつ」の販売促進キャンペーンを行いました。キャンペーンにはＪＡ職員のほかミスフレッシュ秋田や丸果秋田県青果の担当者らが参加し、店頭にて「白神きゃべつ」の試食会を行いＰＲしました。

この日は、来店者にきゃべつのざく切りにごま油と塩を混ぜたドレッシングをかけて提供しました。試食された方からは「やわらかく甘みもあり、きゃべつそのままの味が楽しめた」、「こんな食べ方もあるんだね」といった感想が聞かれ、試食した多くの方が「白神きゃべつ」を購入していきました。